

2022年08月16日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【ジャクソンホール会議に注目】

インターネットなどで調べてみると、今年(2022年)の「お盆休み」は、8月13日(土)から8月16日(火)が基本となる、と記述している。

つまり、今日までが「お盆休み」で、明日から仕事の人も多い、ということなのだろう。

ただし、今週いっぱいまで「お盆休み」の人も多いのだろう、と推察している。

少々気が早いのだが、今年の「夏休み相場」は、今のところ、概して「穏やかな印象」だ。

上述の通りに、今週いっぱい「お盆休み」と考えると、今年の「夏休み相場」が終わった訳でもなく、概して「穏やかな印象」に、気を緩めて油断することがあってはならないのだろうが、今年(2022年)の3月ころから始まった急激な「ドル高円安」にも、一服感が出ている。

ドル/円は、先月中旬(2022年7月中旬)に、139円台の高値を付けた。

139円台からは下落に転じて、130円台を付けたが、130円台からはリバウンド(再上昇)している。

大きく上下動をしているのだが、比較的穏やかに感じるのは、今年(2022年)の3月ころから7月にかけてのドル/円の急上昇と比べると、この目先の値動きが相対的に小動きに映るからなのだろう。

+++++

この時期になって、気になるのが「ジャクソンホール会議」。

「ジャクソンホール会議」とは、米国のカンザスシティ連邦準備銀行が、ワイオミング州のジャクソンホールで、毎年夏に開く金融・経済シンポジウムのこと。

過去の例では、2010年8月に、当時のバーナンキFRB議長が、量的金融緩和第2弾(QE2)に踏み切ることを示唆する講演を行い、金融市場に影響を与えた。

今年(2022年)の「ジャクソンホール会議」は、8月25~27日に予定されている。

+++++

「ジャクソンホール会議」で、9月以降のFRBの姿勢が明らかになる可能性も否定できないので、大いに注目している。

++++
++++

米国の金融政策に関して、私見を述べておきます。

米国が、強烈に政策金利の引き上げを断行してきたので、一部のマーケット参加者から、その利上げのスピード（ペース）が緩むのではないかと、いった声が出ています。

確かに、連続して0.75%の利上げが何度も実施されるとは思いませんが、今までの（今年に入って以降の）利上げ（利上げ幅）では、米国のインフレに対抗するには不十分である、と考えます。

つまり、9月以降も、米国は利上げを実施するであろう、と推測する、と同時に、さらに今後複数回にわたり、利上げを実施するであろう、と考えます。

換言するならば、1回あたりの利上げは、0.75%とか、1.00%のような大幅な利上げではなく、0.50%とか、0.25%のような小幅な利上げを、小出しにして（小分けにして）実施するのだろう、と予想しています。

それは、利上げのスピード（ペース）が緩むように見えますが、方向性としては、「金融引き締め」が維持され継続することを意味します。

米国の金利上昇は、まだまだ続く、と考えます。

++++
++++

(2022年08月16日東京時間15:00記述)